

入 試 年度	2026 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士後期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	史学専攻日本史学 専修
入 試 方式	外国人留学生入学試験		試験科目	日本語による専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答例（採点時の観点）】					
大問〔Ⅰ〕					
受験者が研究している時代を中心に日本と東アジアとの文化交流について要約的に記述する小論文問題です。採点時の観点としては、特定の時代の日本と東アジアとの文化交流の特徴と変遷が把握されているのかを見ます。例えば、前近代であれば政治制度や宗教の東アジア地域からの伝播、貿易や人々の移動にともなう文化的交流、近現代であれば日本の軍事的膨張、あるいは経済的拡大にともなう文化的交流（日本による文化的侵略の側面もある）・人的交流などについて簡潔かつ具体的に記されているか、自分が研究する時代の前後の時期にも目配りができているかに焦点を当てて採点します。					
大問〔Ⅱ〕					
受験者の研究の独自性について研究史をふまえて記述する小論文問題です。採点時の観点としては、自分の研究にとって重要な先行研究の内容を正しく理解しているか、その研究書・論文の学界における位置付けを理解しているかを見ます。そして、自分の研究がどのような先行研究に依拠しているのか、あるいはどのような学説を批判しようとしているのかを自覚しつつ、今後の自分の研究を発展させる方向性についてどのように具体的に構想しているのかに焦点を当てて採点します。					
【出題の意図】					
大問〔Ⅰ〕					
日本と東アジア世界との文化交流をどのように捉えるのかは、時代によってその特徴は様々であり、その時代の東アジア世界における日本の立ち位置を理解する上で重要な事柄です。今後、自分の歴史学研究を深めていく際に「東アジアにおける日本」という視野をもつ必要があります。また、自分が主として研究する時代だけでなく、その前後の時代への目配りがされているか、研究者としての歴史認識の深さと広さを見極めるための問題となっています。					

大問〔Ⅱ〕

先行研究の整理は、研究者として自分の立脚点を明確にする上で極めて重要なことであり、研究史上における自らの研究の位置を自覚しているか、そしてその上で、どのような先行研究に依拠しつつ、あるいはどのような先行研究を批判しつつ自らの研究をさらに発展させていこうとしているのか、その方向性（研究者としての将来性）を見極めるための問題となっています。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。